タルニヨリ始メテ其纒リタル意見ヲ知ルヲ得タリ戰亂久シキニ亙リ交通不便ノ爲メ歐洲ヨリ雜誌ヲ得ルノ極メテ困難ニシテ且ツ稀レナルヲ以テ未ダ此等論文ニ接セラレザル斯學者ニ對シテ參考ノ一助トモナランコトヲ慮リ且ツ宮部逸見兩氏ノ好意ニ酬イン爲メ本誌ノ餘白ヲ借リテ其全文ヲ茲ニ轉載スルコト丶セリ（編者云フ、茲ニ當ニ揭グベキ右轉載文ハ歐字ナルノ故ヲ以テ姑ク之ヲ本誌ノ歐文欄內ニ移シ載セタリ）

○艸樂談片（其一）（承前）

東京　岸田松若

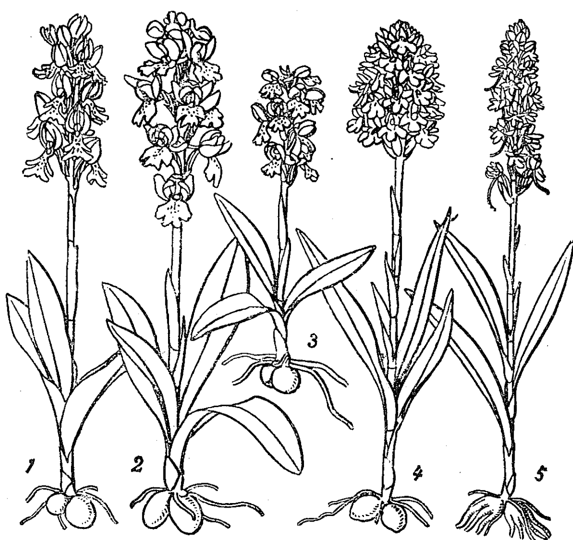
●紅花ノさいはいらん　さいはいらん Cremastra appendiculata MAKINO. ハ本邦隨處ニ產スル蘭科植物ノ一品デアル其地下ニ存スル塊莖ハ粘液及澱紛ニ富ムヲ以テ之ヲ歐羅巴ヨリ產出スル「サレップ」根（Radix Salep.）ニ代用シ包攝藥トシテ胃「カタル」等ニ應用スル、五月ノ末葉側ニ一莖ヲ抽クコト一尺許少シク暗紅紫色ヲ帶ビ莖梢三五寸多クハ一側ニ偏シテ穗狀ニ花ヲ綴リ多キハ二十ニ及ブ花蓋ハ淡黃褐色脣瓣ハ白色ヲ帶ビテ紅紫色ノ美シイ斑點ガアルノヲ普通トスル然ルニ草木圖說ニモ日本產物志ニモ大和國多武峰ニハ紅花ノ品ヲ產スル事ガ書イテアル大和國宇陀郡農會ニ中北幾次郎君ナル人ガアル會々多武峯ニ藥草ヲ探ル際紅花ノさいはいらんヲ得テ尙同山ニ產スルモノハ多クハ紅花ナル由ヲ報ゼラレタ大正六年ノ初夏大和ニ遊ンデ中北君ヲ宇陀郡松山町ニ訪レ其採ル所ノさいはいらんヲ見セテ貰ッタ其レハ正ニ紅花ノ品デアッタ

松山町ハ享保年間本草學ノ碩學森野賽郭ヲ出シタ地デ其邸ハ今尙當時ノ趾ヲ存シテ庭內ニハもくげんじ、おがたまのき、はなのき、にくけい等ノ抱餘ノ巨樹ガ繁ッテ樹下ニハイロイロノ藥草ガ僅ナガラニマダ昔ノ面影ヲ殘シテ居ル中ニモ Aconitum longecassidatum NAKAI. ト思ハレルれいじんさうがアル此等ハ幕府カラ拜領ニナツタモノダロウト思フ余ハ中北君ト此園內ヲ步イテ居ルト逕側ノ樹蔭ニ紅花ノさいはいらんが花ヲ著ケテ居ル

ノヲ見タ以前カラアルモノデ或ハ賽郭ナドガ採集シテ植ヱタモノカモ知レナイ中北君ハ同郡大野村三本松ト云フ處デモ紅花ノ品ヲ採ッタノデ自分ハ大和邊ノさいはいらんハ大概ハ紅花ノモノガ普通ナノデハナイカト思ッタ、翌日中北君ト室生山ニ登ッタガ同山ニモ亦其途中ニモさいはいらんが澤山ニ有ッタガ皆紅花ノ品デアッタ此紅花ノさいはいらんハ形狀ニ於テハ普通ノモノト少シモ異ラナイガ花蓋ガ著シク紅色ヲ呈シ脾瓣ハ殆ド紅紫色デ時ニ或ハ僅ニ白斑ヲ存スル、花莖モ亦著シク暗紫紅色ヲ呈シ鐔ハ淡黃褐色デ少シク暗紫紅色ヲ帶ビ同色ノ細點ヲ滿布シ暗色ノ脈條ヲ有スル葉柄モ稍暗紫紅色ヲ帶ビテ居ル東京邊ノ高尾山ナドニ產スルモノヨリモ餘程奇麗デ庭ニ植ヱテ眺矚ニ値スルモノデアル斯クテ余ガ關西ノ旅ヲ終ヘテ歸ッタラ其前年ノ夏奈良ノ春日山デ採ッタさいはいらんガ亦紅花ヲ開イテ居タ

●**「サレップ」**　藥局方ニ「サレップ」(Salep)ト云フモノガアル此レハ歐羅巴中部ノ山嶺地方ニ產スル Orchis Morio L.（左圖3）O. mascula L.（同2）O. militaris L.（同1）Platanthera conopsea SCHLECHT.（同5）Anacamptis pyramidalis RICHARD.（同4）等ノ蘭科植物ノ塊根ヲ帶花時期ニ採ッテ花莖ヲ戴ク老根ヲ去リ洗ッテ沸湯ヲ注イデ後ニ乾シタモノデアル、胃「カタル」等ノ場合ニ煎劑ニシテ刺戟ヤ焮衝ヲ防グ目的デ包攝等トシテ用ヰル、成分ハ植物纖維素（Cellulose）ニ類スル粘液即チ「アムモニア」銅溶液ニ全ク溶解シ又硝酸ニヨッテ粘液酸ヲ作ラナイ擬粘液（眞正粘液ハ硝酸ヲ以テ酸化スルトキハ粘液酸 $C_4H_4(OH)_4\left<\begin{matrix}COOH\\COOH\end{matrix}\right.$ ヲ作ル）ト澱粉トデアルガ澱粉ハ精製ノ際熱湯ヲ注イダリ若クハ熱湯中デ洗ッタリスルノデ凝固(糊化)シテ居ル

「サレップ」ハ既ニ太古ヨリ藥用ニ用ヰラレ又ハ食用品トシテモ知ラレテ居タ、其「サレップ」ナル名稱ハ中古アラビアノ醫者ニ始マッタモノデアル、小亞細亞地方デモ何カ蘭科植物ノ塊根ヲ「サレップ」ト同樣ノ目的デ用ヰ印度デハ Eulophia 屬ノ根ヲ用ヰルト云フ、日本デハさいはいうんノ塊莖ヲ用ヰルコトハ前ニ書イタガ尙此外歐羅巴デ「サレップ」ニ用ウル Platanthera conopsea SCHLECHT.（てがたちどり）ハ日本ニモアルシはくさ



1. Orchis militaris L.
2. Orchis mascula L.
3. Orchis Morio L.
4. Anacamptis pyramidalis RICH.
5. Platanthera conopsea SCHLECHT.

んちどり (Orchis aristata FISCH.) にょほうちどり (Orchis pauciflora FISCH.) のびねちどり (Platanthera decipiens LINDL.) 等本邦山地ニ多ク產スルモノハ皆代用ニ堪ヘ且充分ナルモノダロウト思フ此內ノ二三ノモノハ嘗テ自分モ煮テ食ッタ事ガアルガ然程ニ不味イモノデハナイシ又「サレップ」ノ味ニヨク似タモノデアッタ尙 Platanthera, Gymnadenia, Habenaria, Orchis 等諸屬ノモノデ塊根ノ長大ナルモノハ大概「サレップ」トシテ用ヰラレハシナイカト思フ、又昔カラ漢方醫ハしらん (Bletilla striata REICHB. F.) ノ塊莖ヲ白及(びやくきう)ト稱シテ藥用ニ供シテ居ルさいはいらん程デハナイガ隨分粘液ニ富ンダモノデアル

○杜仲軒赭鞭夜話 (二)

橫濱 杜仲軒主人 久内清孝

▲**しきみノ學名** ハ Illicium anisatum L. デ其異名トシテ I. religiosum SIEB. ET ZUCC. ト云フ稱呼ガアル事ハ誰モ知ッテ居ル平凡ナ事實デアルガストラスブルガー氏植物學教科書千九百五年第七版ノモノニハ Star Anise ハ支那產ノ Illicium anisatum カラ得ラレルガ日本產ノ Illicium religiosum ハ有毒デアルト書イテアル、今日ノ新版ノモノニハ何レ訂正シテアルカモ知レヌガ千九百